

自分だけを守っているうちは、
出せない力がある。

— PHOENIX愛知

誰もが持つ「自分を守りたい」という本能

「失敗して恥をかきたくない」

「責められたくない」



「自分だけ損をしたくない」

自分を守ることを優先しすぎると、無意識のうちに自分の限界線を引いてしまう。

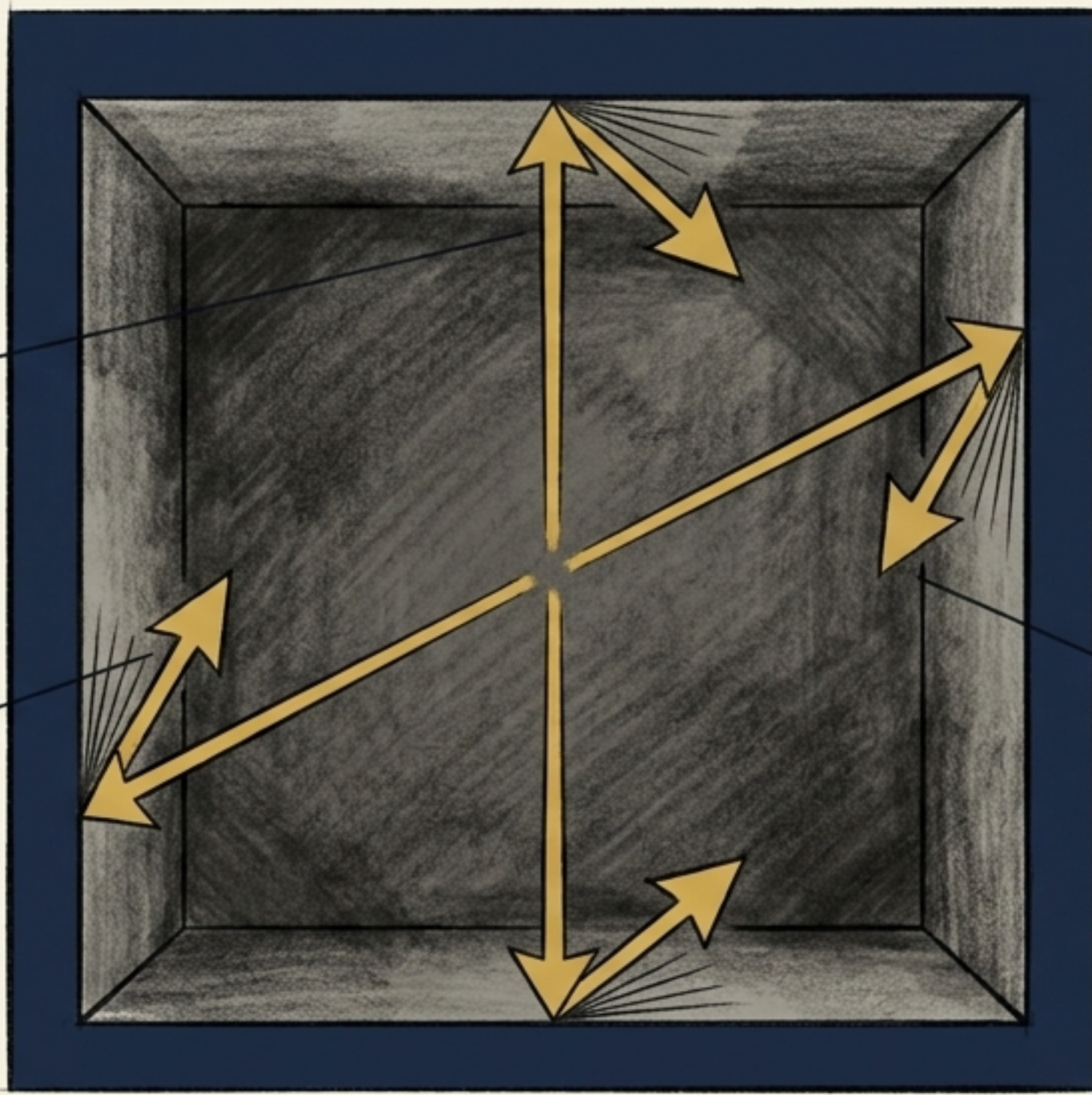
安全の代償

自分を守る枠の中にいる限り、
以下の行動は生まれない：

必要な場面で
声を出すこと

責任を引き
受けること

仲間のためになる
苦言を呈すること



傷つかずに済んでも、力を発揮する機会を失っているのだ。

視点のシフト：「私」から「私たち」へ



「自分のミスにされたくない」



一歩が出ない、足が止まる。



「パートナーを助けたい」



苦しい一球にも、自然と手が伸びる。

勇気のメカニズム

恐怖が消えたわけではない。



恐怖よりも
優先したいものが
できたのだ。

「他者のため」という目的が、恐れを上回った瞬間に、
閉じ込めていた力が引き出される。

マインドセット診断：あなたはどちらの枠にいるか？

	自己保身の意識	仲間・チームファースト
究極の目的	自分の評価を守ること	仲間のピンチを救うこと
ピンチでの反応	「失敗した自分を見られたくない」 力む・縮こまる	「なんとかして繋ぐ」 身体が勝手に反応する
最終的な結果	せっかく身につけた力を 閉じ込める	自分の枠を越えた、 未知の力を発揮する

「人は、何のためなら勇気を出せるのか」

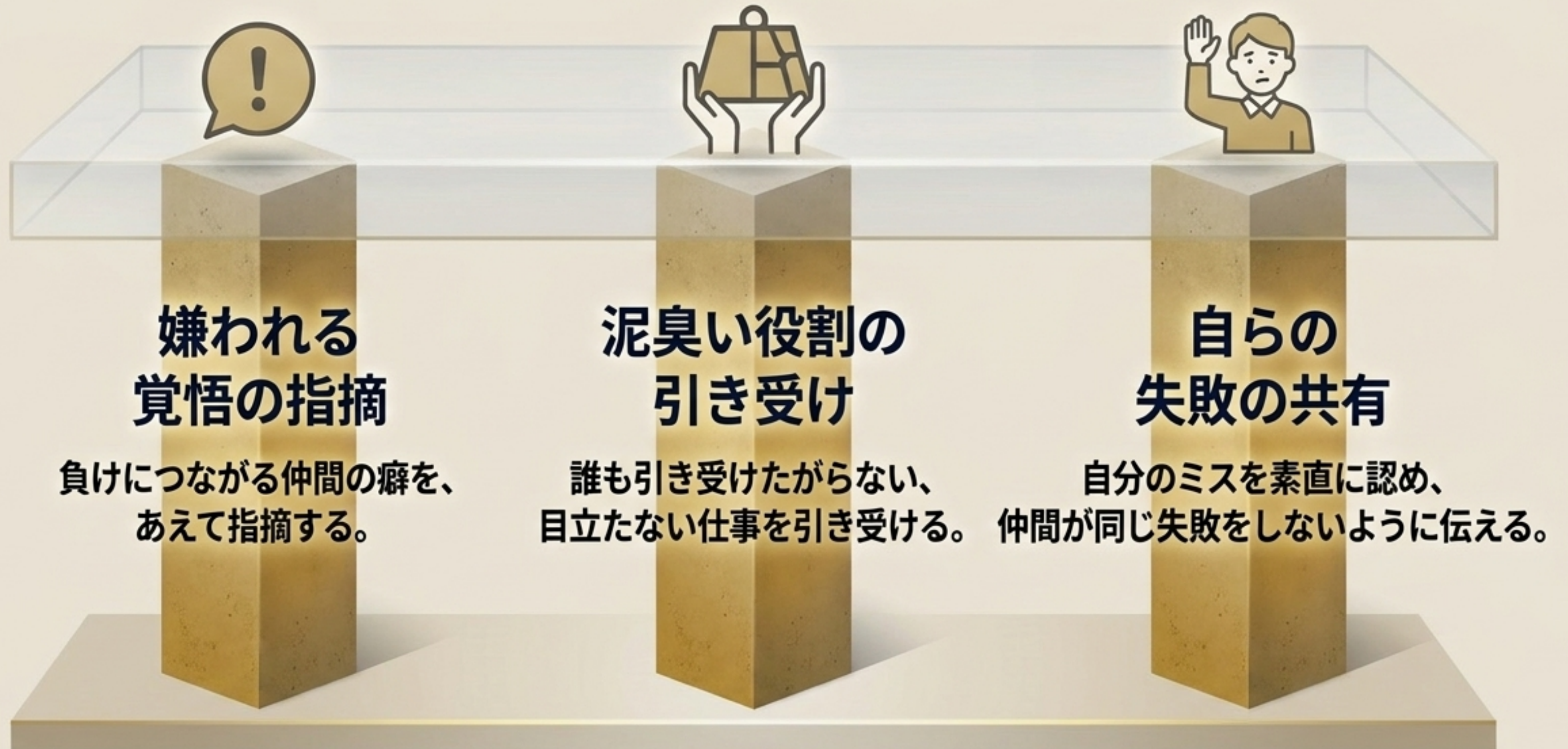
自分の評価が気になって出せなかった一歩が、仲間のピンチを見た瞬間に出る。

その一歩に、人間の美しさがある。

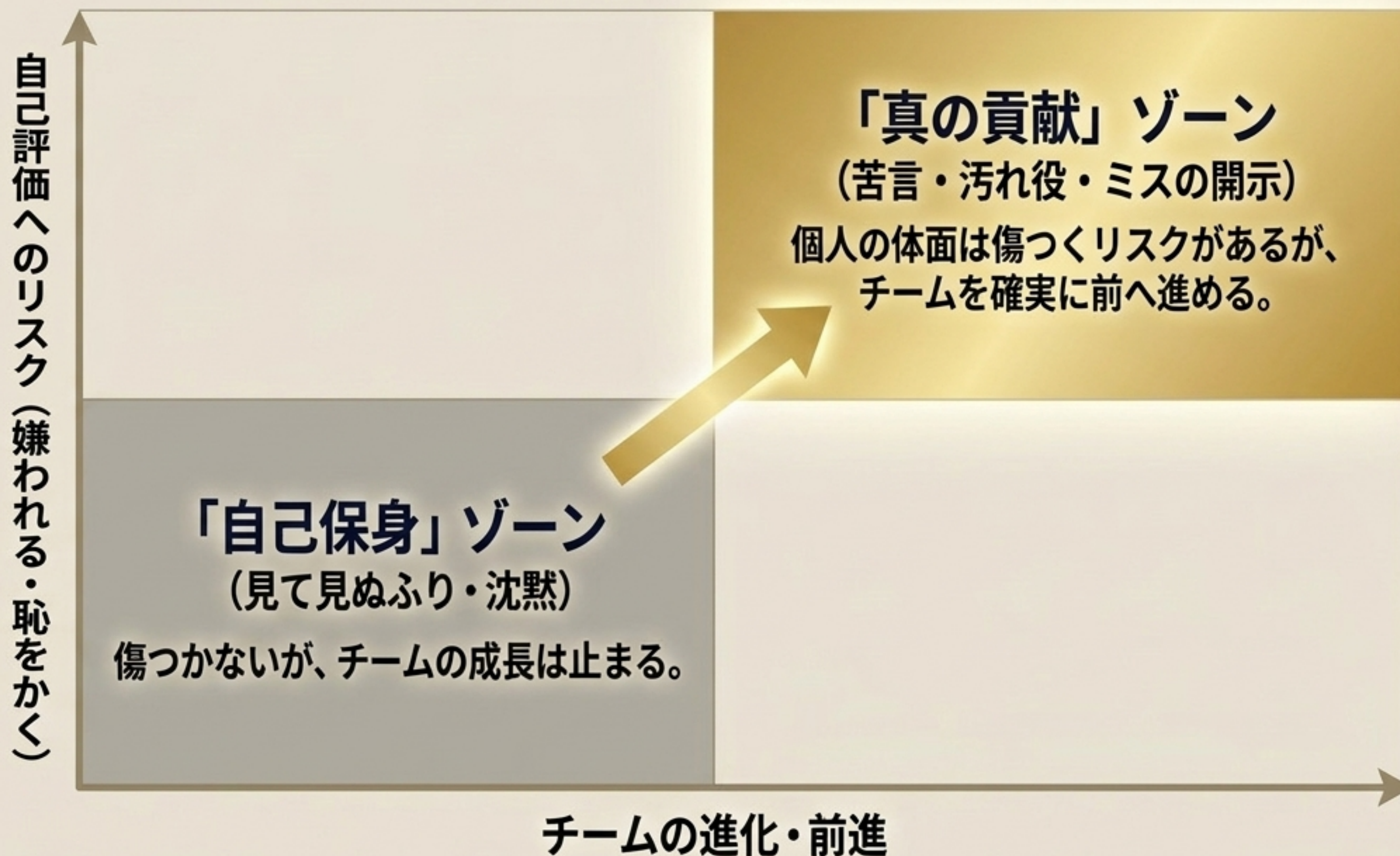
しかし、仲間を守る行動は、決して華やかなものばかりではない。

見えない勇気の3本柱

自分の体面だけを守っていたら、選びづらい3つの行動。



なぜ、その行動は難しいのか？



勇気の波及効果（リップル・エフェクト）

誰か一人の覚悟

一人が体面を捨て、
仲間のために動く。

共鳴

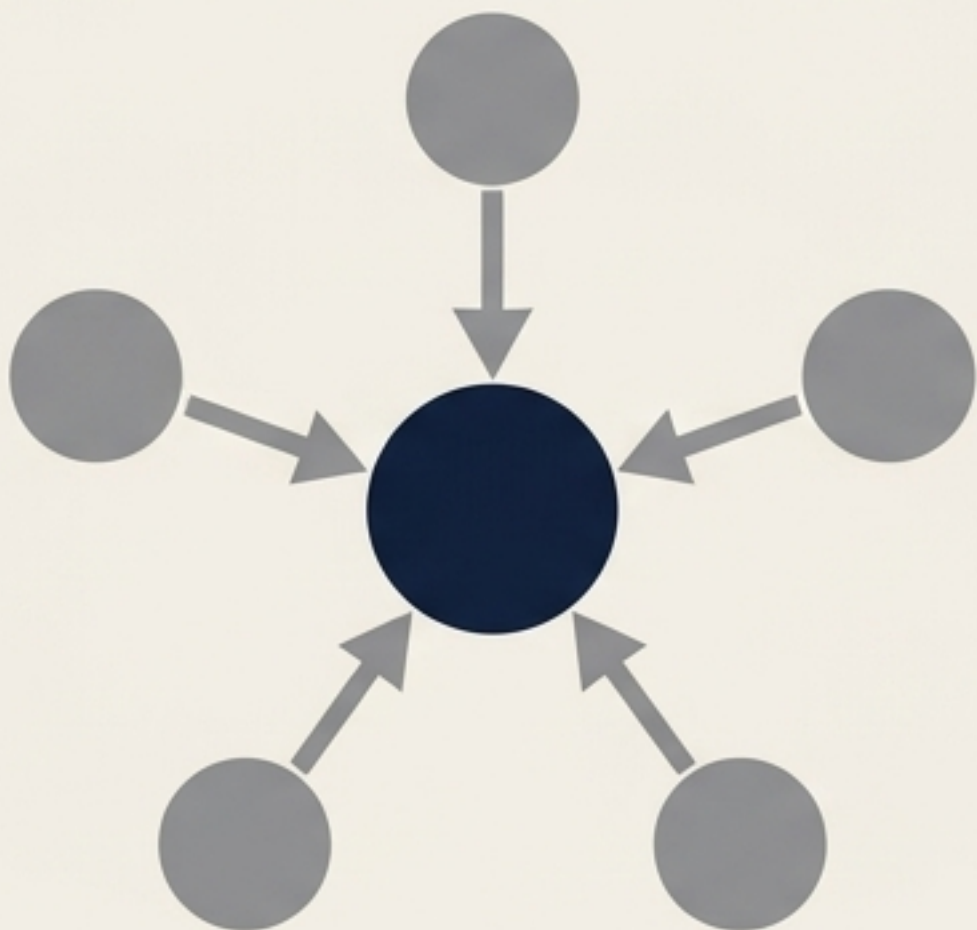
「あの人が動いてくれた。
今度は自分が動こう」
という感情の連鎖。

チーム全体の出力向上

互いを守ろうとすることで、一人では
出せなかった力が連鎖的に生まれる。

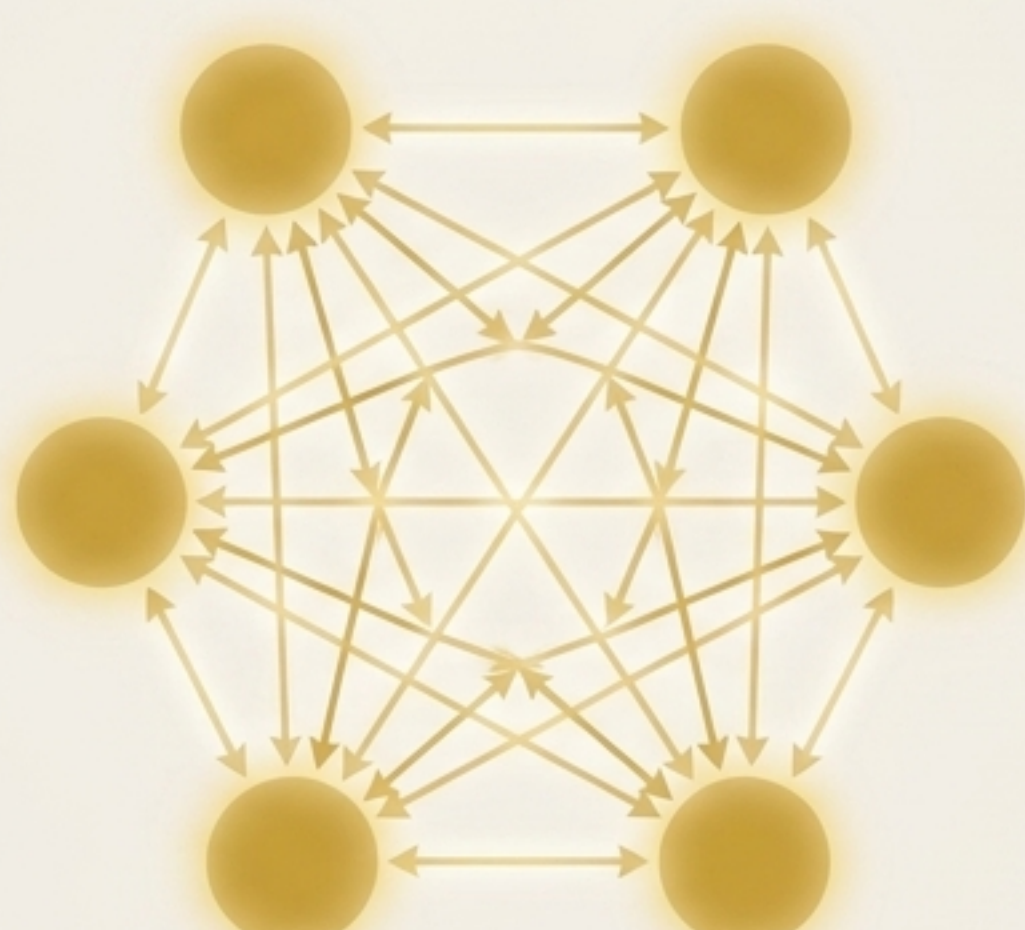
組織の進化：依存から相互支援へ

「誰か一人」に頼るチーム



特定の個人の覚悟や力に依存している状態。

互いに支え合うチーム



守られる側だった人が、守る側にも立つ。

この変化こそが、チームの「成長」である。

成長の再定義

真の成長とは、単に技術が向上することではない。
「守られる側」から「守る側」へ移行することだ。

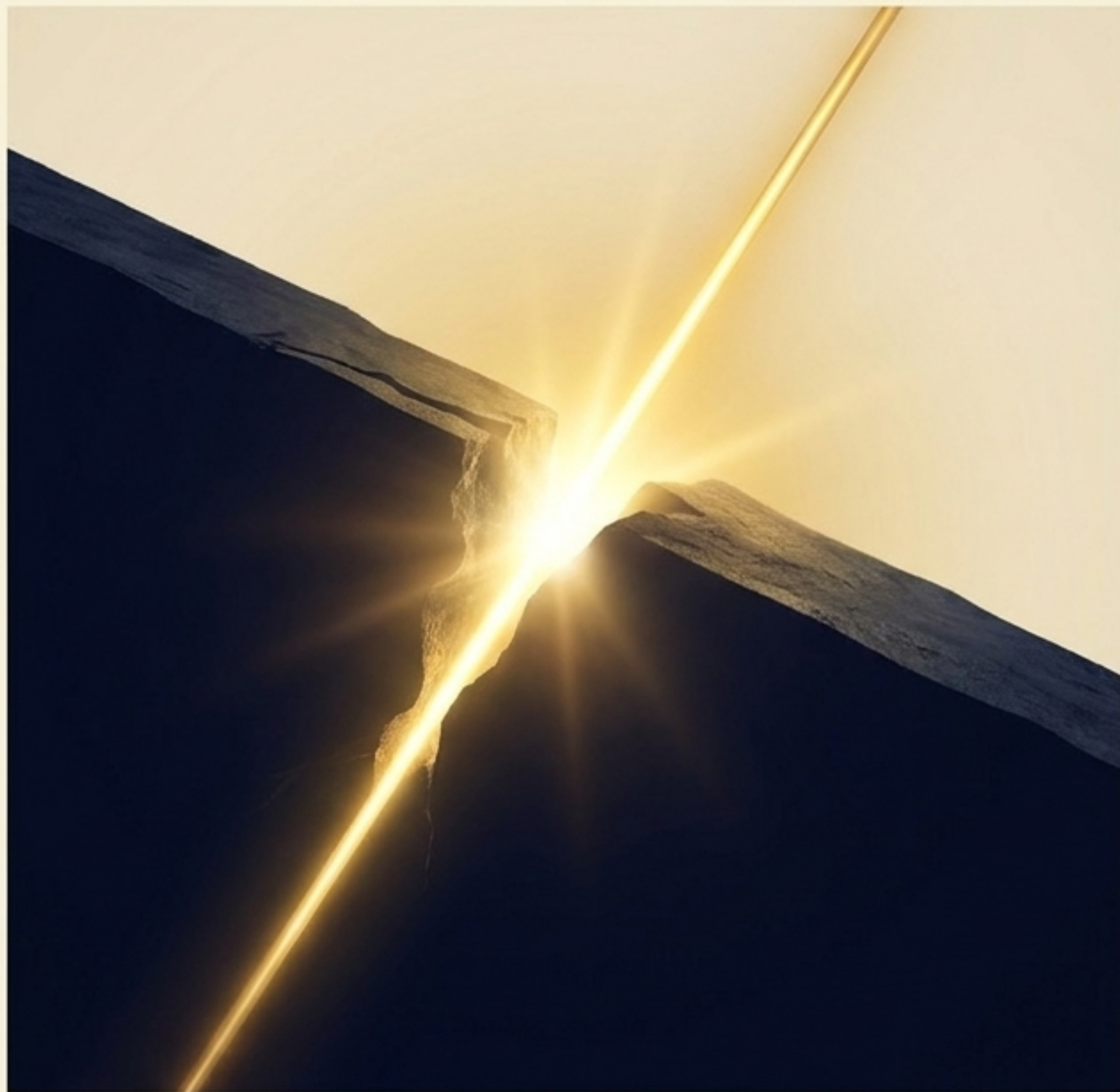
自分のことだけを守る枠を越えたところに、
まだ発揮していない、あなた自身の本当の力がある。

今、あなたが
守ろうとしているものは何か。

自分の体面か。

それとも、
一緒に戦う
仲間の未来か。

最初の一步



自分の弱さを知っていてもいい。
恐れを抱えたままでもいい。

**それでも、誰かのために
一歩を出すことはできる。**

その一歩から、
あなたも仲間も変わり始める。

人間の持つ、
この美しく誇らしい力を信じよう。

出典・理念

本プレゼンテーションは、PHOENIX愛知の指導理念・ブログ記事を元に構成されています。

「技術だけでなく、人間としての根幹を育てる」

豊田市・岡崎市近くのバドミントン教室

PHOENIX愛知

(シンさん / レン)

- ・ PHOENIX愛知の理念: phoenix-aichi.net/philosophy/
- ・ ブログ原文: 「格言：自分だけを守っているうちは、出せない力がある。」
- ・ お問い合わせ / 体験レッスン受付中